

I 導入部

おはようございます。5月の第一日曜日を迎えました。休みの中ですが、愛する皆さんと共に礼拝がささげられますことを感謝致します。先週は、教会総会がありました。2025年の1年の歩みを神様が導いて下さったことを感謝し、2026年は、さらなる神様の導きと恵みがることを期待しつつ、教会行事や予算等を確認しました。また、教会役員選挙があり、ふさわしい方々が選びだされました。来週は、役員就任式と新役員の役員会が持たれます。役員の方々の信仰と霊性が祝福され、聖霊の導かれる役員会となりますようにお祈り下さい。今はゴールデンウィークの休みの中にあります。今日までにどこかに出かけられて良き休息やお交わりがあったでしょう。これから出かけられて休息したり交わりの時を持つ方々もおられるでしょう。神様の恵みと祝福がありますようにお祈り致します。今日は、使徒言行録1章3節から11節を通して、「イエス様の遺言と最後」という題でお話し致します。

II 本論部

一、物事がいつどうなるかよりも、イエス様の言葉に従うことを優先する

3節を見ると、「イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。」とあります。イエス様は、十字架の死によって全人類の身代わりとなり、神様からの罰を受けられ、死んで墓に葬られました。しかし、三日目によみがえらされて罪と死に勝利され、40日間にわたってご復活したことを多くの証拠を持って弟子たちに示し、神の国について話されたのでした。イエス様を裏切り見捨てた弟子たちに、イエス様は何度も現れて語られたのです。イエス様の復活の事実を確認させ、神の国について何度も語られました。神の国とは、神様のご支配、神様の支え、神様の配慮のあるところでしょう。そのことによって、弟子たちの信仰は、感情や雰囲気といったものではなくて、イエス様が死からよみがえられたという確かな事実による信仰へと変えられたのです。イエス様の十字架の死と復活は、弟子たちの信仰の中心となったのです。私たちの信仰も、信仰的な雰囲気やキリスト教的な何かによるものではなくて、イエス様の十字架の死と復活が拠り所であり、中心なのです。イエス様は、弟子たちに40日間にわたって神の国について語られました。弟子たちは、どうしても地上的な事、人間的な事しか考えられない者たちでした。その弟子たちの地上的な、人間的な思いを神の国について話すことによって、人間的なことではなく、神様の支配について何度も語られたのです。弟子たちの信仰は、何に基づいているのか。弟子たち人生の中心は人間の支配する国なのか、神様の支配する国なのかと問い、弟子たちの視点を整え、これから弟子たちがイエス様が遣わそうとする使命に備えさせて下さったのです。4節には、「そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。」とあります。イエス様は、弟子たちとの食事の席で語られたのです。イエス様は食

事の席で弟子たちに様々なことを大切な事をよく話されたようです。イエス様は弟子たちに「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。」と言われました。ルカによる福音書24章49節には、「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどっていなさい。」とあります。5節を見ると、「ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。」とあります。弟子たちが「聖霊による洗礼を授けられる」とイエス様は言われました。イエス様ご自身が、ヨハネからバプテスマを受けた時、聖霊が降ったように、選ばれた弟子たちにも聖霊が降り、聖霊による洗礼が行われることを予告します。弟子たちは神様によって授けられる聖霊による洗礼を受けるのです。6節、7節には、「さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。」とあります。6節をリビングバイブルは、「そこで、またイエスが姿を現わされた時、使徒たちはわくわくしながら、「主よ。今こそ、イスラエルを解放し、独立国として再興なさるのですか」と尋ねました。」とあります。弟子たちは、わくわくしたのです。弟子たちはイエス様の復活の事実を確認し、イエス様のさらなる権威に期待して、地上的な回復や政治的な救いを願っていました。弟子たちは、「この時ですか」と問いましたが、イエス様は弟子たちの人間的な、地上的な、政治的な関心を修正されます。イエス様は、「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。」と言われました。リビングバイブルには、「それがいつかは、父がお決めになる。あなたがたが、とやかく言うことはできないのだよ。」とあります。イエス様は、「イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」という考えで歩むべきではないことを示されたのです。私たちも神様に祈る時は、「いつですか。どうなりますか。」と問うことができるでしょう。イエス様は、弟子たちに知ることよりも、従うということを願われるのです。そして、私たちにも何かを知ること以上に、神様の言葉、イエス様の言葉に従うことを願われるのです。私たちは、イエス様の、聖書の言葉に従うことを大切にしたいのです。

二、聖霊の力を受けてイエス様の証人とされている私たち

8節には、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」とあります。リビングバイブルを見ると、「だが、聖霊様があなたがたに下る時、あなたがたは大きな力を受け、エルサレムからユダヤ全土、そしてサマリアから地の果てまで、わたしの死と復活を伝える証人となるのだ。」とあります。イエス様は、弟子たちがイスラエルの復興のために生きるのではなくて、救い主イエス様の事を、イエス様の十字架と復活を通して、魂の救いと永遠の命が与えられることを証しする証人になることを示されたのです。イエス様の十字架の死と復活を通して実現していくのは、イスラエルの復興、回復ではなくて、イエス様を宣べ伝える証人、イエス様の証をする人々の群れ、キリスト教会の成立なのです。言い方を変えれば、イエス様がイスラエルのために国を復興なさるということは、イエス様を中心としたキリスト教会の誕生とその歩みのこ

となのです。イエス様の弟子たちが、イエス様の証人となって、「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで」派遣されて行くことが、イスラエルのための国の復興となるということなのです。弟子たちのメシアによる救いの完成として思い描いていたことというと、旧約聖書に示されている神様に選ばれたイスラエル、ユダヤ人だけに限定されていたものでした。しかし、イエス様は、イスラエルの国、ユダヤ人だけではなくて、弟子たちが聖霊を受けることによって、「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで」イエス様の証人となるということでした。イエス様が弟子たちに約束された「聖霊様があなたがたに下る時、あなたがたは大きな力を受け」と言われた、聖霊の力とは、単なる能力というものではなく、弱さの中で働く力であり、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。」(Ⅱコリント 12:9)、恐れを打ち破る力であり、聖霊の力の「力」は、ギリシャ語ではデュナミス(ダイナマイトの語源)とあり、ダイナマイトのような圧倒的な力なのです。また、自分の言葉、人間の言葉ではなく、神様の言葉を語らせる力であり、人間的な愛、自分の愛ではなくて、イエス様の愛で人に向かわせる力なのです。弟子たちは、自己中心的で、人間的で、肉的で弱い存在でしたが、聖霊が下り力を受けると、迫害をも恐れず、命さえも差し出して、大胆に福音を語る者と変えられて行くのです。イエス様は、弟子たちの証の範囲を示されました。それは、「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで」と言われました。エルサレムとは最も近い場所であり、今弟子たちがいる場所でした。エルサレムとは、身近な場所であり、イエス様が十字架にかかり蘇られた場所でした。そして、弟子たちの弱さや欠点が浮き彫りにされた場所、弟子たちにとってはいたくない場所、逃げだしたいと思われる場所でした。しかし、そこから宣教は、福音は広がっていくのです。ユダヤとサマリアの全土とは、違いを感じる人、価値観の違う人々のいる場所でもありました。かつてはユダヤ人であった者たちが、異邦人の血が混ざりサマリア人となり、習慣や価値観の違う人々、そこに福音が伝えられるのです。そして、地の果てまで、つまり、まだ届いていない人、言語も異なる世界、異邦人の世界に福音が伝えられていくのです。聖霊は私たちを外へ外へと押し出して行くのです。そのために、弟子たちは聖霊の力を受ける必要があります、聖霊の力を受けるためには、エルサレムにとどまらなければならなかったのです。イエス様の福音の証は、私たちの最も近い場所、家族から、学校や職場から、友人からであり、今置かれている所が、どのように厳しく、自分の弱さや欠点が露呈されている場所、逃げ出したいと思っている場所であっても、イエス様は、そこがスタートだとおっしゃるのです。そのために、私たちは聖霊の力を頂く必要があります。また、イエス様は、ご自分を弁護する弁護士やご自分の事を教える教師になれとは言われませんでした。わたしの証人、イエス様の証し人になると言われたのです。自分なるのではなく、証人とされるのです。証人とは、証し人とは、勉強して知識を増やし、経験を重ねてなるものではありません。証人とは、自分の見たこと、聞いたこと、経験したことを語る人です。イエス様の証人とは、聖書の全てを理解し、説明できなくてもいいのです。神学的に学び、神学的な何かを持たなくてもいいのです。立派な言葉や素晴らし

い経験がなくてもいいのです。皆さんの救いの証です。どのように教会に、聖書に、イエス様に出会い、どのようにイエス様を信じて救われたのか。それがイエス様の証人として語るべきことなのです。

三、見えるイエス様の代わりに見えない聖霊がいつもそばにおられる

9節には、「こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」とあります。使徒言行録はルカが書きましたが、ルカによる福音書24章50節、51節には、「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。」とあります。ルカによる福音書は、24章の最後でイエス様が天に挙げられる前に、弟子たちを祝福されたことが記されています。それは、イエス様の生涯の締めくくりとして、イエス様は弟子たちを祝福して終わっているのです。イエス様の生涯の最後は弟子たちを祝福された。つまり、私たちをも祝福されているということです。そして、使徒言行録では、その最初の1章でイエス様の最後は、弟子たちがイエス様を見ているうちに天に上げられ、雲に覆われて弟子たちの目から見えなくなったことが記されています。それは、イエス様が弟子たちに使命を与えられ、弟子たちのもとは去られて、弟子たちの目からは見えなくなったということを告げているのです。10節、11節には、「イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」とあります。弟子たちが、天を見つめていると、白い衣を着た二人とは、天使でしょう。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。」と言いました。リビングバイブルには、「なぜ空ばかり見上げているのですか。」とあります。これは、天使が弟子たちを叱っているのではなくて、天使は上を見上げることは大切な事だけれども、イエス様が天に上られ、見えなくなったので、ただ見上げたままの信仰、イエス様がいなくなってしまうような不安定な、心細いといったものではなくて、上を見げつつ歩き出す信仰、前に向かって歩みだすことを示しているように思います。パウロは、「なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」と言いました。目に見えるイエス様の姿は見えなくなったけれども、見上げて立ち尽くす者ではなく、やがて聖霊の力を受けて遣わされる者になるという方向転換を示しているように思うのです。私たちもイエス様の姿をこの目で見ることはできません。しかし、イエス様の代わりに、イエス様に成り代わって、私たちの内に住んでおられる聖霊なる神様が私たちの信仰を導いて下さるのです。やがてペンテコステの日、弟子たちに降り、力を与え、イエス様の証人として立て、遣わした聖霊なる神様が、今私たち一人ひとりに働いて下さり、力を与え、私たちをもイエス様の証人として立てて下さり、私たちをイエス様の証人として遣わして下さり、神様の救いのみ業を進めさせ、教会の働きを豊かに祝福して下さるのです。イエス様と同じ人格者である聖霊なる神様が私たちと共におられ、私たちをささえ、恵み、豊かに祝福して下さる

のですから、イエス様のお姿を見ることができないことを悲観することも、嘆くこともないのです。イエス様が天に 上り、見えなくなったからこそ、聖霊なる神様が与えられ、神様の力が与えられて、イエス様の証人となり、この世に遣わされて行く者とさせられたのです。「しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところへ送る。」と言われていたのです。私たちも自分の将来が見えないので立ち尽くすことがあるでしょう。困難や苦しみのゆえに、祈りができなくなることもあるでしょう。与えられた使命を見失ってしまうこともあるでしょう。それは誰にでもあることなのです。弟子たちも、イエス様の姿が見えなくなった、心の支えを失った時、天を見上げて立ち尽くすことしかできなかったのです。そんな弟子たちにイエス様はすでに約束を与えられていたのです。「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」と。そして、私たちにも同じ約束を与えていて下さるのです。

Ⅲ 結論部

私たち一人ひとりに聖霊の力は与えられています。聖霊と同じ人格者なるイエス様はいつも私たちと共におられて、私たちに支え、私たちに強め、私たちに励まし、私たちにイエス・キリスト様の証人としてこの世に遣わしておられるのです。聖霊なる神様は、今私たちがどのような状況でも、力を与えて下さるのです。そして、イエス様の証人として私たちの働きは最も近い場所から始まるのです。そして、イエス様の証人とされた私たちは、イエス様の救いを体験した者として、見たこと、聞いたこと、経験したことを語るのです。イエス様の証人となるために努力したり、神学を学んだり、頑張る必要はありません。あなたはすでに聖霊の力を受けて、家族のもとに、学校や職場に、近隣やサークルに地域にイエス様の証人としてすでに遣わされているのです。そのことを信じて、イエス様を信頼して、イエス様に全ての重荷をお委ねして、全てをお任せして、安心して、イエス様と共にこの週も歩んでまいりましょう。